（第2号様式）

令和5年4月 27 日
県立綾瀬高等学校

令和5年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 （令和2年度策定）	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学力向上に資する、新しい学びとその評価方法を確立し、組織的な授業改善を一層進める。 ②生徒が学ぶ意欲を向上させ、課題解決力を身に付けることのできる教育課程を編成するとともに新学習指導要領の完全実施のための指導体制を確立する。	①ICT 機器を活用した授業づくりを研究し、評価方法を確立し、組織的な授業改善に努める。 ②授業のUD化を進めることで障害の有無にし関わらず共に学ぶ意識を向上させ、課題解決力を身に付けることができる教育課程を編成する。	①動画やオンライン授業等、ICT 機器を活用した授業と評価の研究を引き続き行う。 ②本校生徒にとって必要な学校のUD化を検証し、必要な対応を検証するとともに組織的に課題の改善を図る。	①生徒による授業評価で「授業以外における学び」が定着したか。教室での講義型から脱却した授業の研究ができたか。 ②授業のUD化を図れたか。また、学校全体で UD化を推進することができたか。					
2	生徒指導 ・支援	①変化する社会と生徒への理解を深め、いのちを大切にする相談支援体制を確立し、すべての生徒に対し最適な支援を行う。 ②部活動、生徒会行事や委員会活動等の新しい支援体制づくりを推し進め、活動の活性化を実現し、生徒の主体性の育成を図る。	①生徒支援の意識を高めながら、支援を要する生徒の情報共有やケース会議、場合に応じた外部機関との連携を通して、生徒の健全な成長を支援する。 ②全ての生徒が関わることができる行事の在り方（行事の UD 化）を探るとともに、生徒が主体となって学校行事を運営できる能力を培う。	①各学年と Co との間での定期的な生徒情報の共有を行う。特に支援を要する生徒に関しては、ケース会議や SC・SSW との連携を図りながら、手立てを講じつつ、教職員全体で、充実した学校生活をサポートする。 ②全ての生徒が積極的に参加できる行事を検討するとともに、部活動の活動実績を、校内外の掲示物・HP・Twitter を活用してこまめに紹介することで生徒の主体性の醸成を図る。	①支援を要する生徒に関して、ケース会議や SC・SSW との連携を図りながら、手立てを講じることができたか。教職員全体で、充実した学校生活をサポートすることができたか。 ②個々の生徒の特性を把握し、行事の運営に反映できているか。また、委員会・係の活動状況が可視化でき、HP・Twitter が更新され、掲示物が常に新しいものに変わっているか。					
3	進路指導 ・支援	①進路データの蓄積と分析により、エビデンスに基づく「キャリア教育実践プログラム」を実践し、生徒の目標レベルを高め、その進路希望の実現を支援する。 ②「正解」のない課題を発見し、その解決に挑み、自らの学びと生き方をデザインしようとする態度や多様性を認めあい、人と協働して積極的に社会に貢献しようとする姿勢を育成する。	①エビデンスに基づく「キャリア教育実践プログラム」を実践推進し、生徒自身で目標設定を行い、主体的に目標を達成できるための支援を行っていく。 ②「正解」のない課題を発見できるような取り組みを行っていくとともに、周りの人と助け合い協力しあい積極的に社会に貢献しようとする姿勢を育成する。	①民間 Web 学習教材の有効活用や本校生徒の実態を反映した進路マニュアルを作成することで進路選択を見据えた指導及び進路データ分析等により個に応じた的確な支援を行う。 ②資格試験取得やインターンシップ等の体験を通じて、自己理解を深める等、上級学校卒業後の進路を見据え「正解」のない課題を発見する仕掛けを工夫する。	①民間 Web 学習教材の有効活用や模擬試験等の受験者数及び進路マニュアルが有効活用できたか。 ②生徒が自ら設定した課題の探究を進めていくことができたか。探究活動等の発表やアンケート等で、自己評価及び他者評価で高評価を得ることができたか。資格試験の受験者数及び資格取得者が増加したか。インターンシップの参加生徒が増加したか。					

	視点	4年間の目標 （令和2年度策定）	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等 との協働	①地域の変化を踏まえた連携を深め、地域の教育力を活用する。また、生徒が学んだ成果を効果的に発信し、地域に還元する。 ②開かれた学校づくりを行いチーム学校の具現化を図る。	①小学校との交流や老人ホーム等の福祉施設等との交流を推進することで地域の人々とともに歩む学校づくりの推進を図る。 ②学校運営協議会を有効活用し、コロナ渦前の活動を振り返り、地域に開かれた学校の具現化を図る。	①地域との交流を推進し、地域の人々とともに主体的に探究する精神を育む学習活動を行う。また、学校見学をより機動的なものとするための仕組みを工夫する。 ②コロナ渦前に行われていた活動をもとに学校運営協議会での意見を参考に学校の諸活動の改善を図る。	①地域との交流により、生徒の探究する学びについて PDCA サイクルの手法を用いて推進できたか。生徒が学んだ成果を効果的に発信することができたか。 ②学校運営協議会委員との意見交換が活発に行われ、地域に開かれた学校づくりができたか。					
5	学校管理 学校運営	①相互理解を深める教育活動、インクルーシブ教育推進に向けた環境づくりを図り、共生社会の実現を図る。 ②「いのち」を大切にし、事故、災害や疾病に対し自ら対応する力を育む。 ③教職員のキャリアステージに応じた資質・能力を高めるとともに、職員の働き方改革を一層促進し、効率的・組織的に学校運営を進め、生徒と向き合う時間を確保し、安心し信頼される学校の管理体制を構築し、維持する。	①学習環境の UD 化を積極的に取り入れる等、インクルーシブ教育推進に向けた環境づくりを促進し、校内外において共生社会の実現を図る。 ②学校が安全で安心な学びの場となるよう教育環境を整備し、生徒自ら対応する力を育む。 ③すべての職員が働き方改革を推進し、組織的で機動的な学校管理体制を図る。	①学習環境のUD化を進めるとともに、キャリア支援センターやリソースルームを有効に活用し、生徒が相談しやすい環境作りを進める。 ②避難場所や防災物品を確認し、災害対策について検討する。また、教室等の安全点検を実施し、整備計画を立てる。 ③教職員の資質・能力を高めるために、ICT 機器の効率的な利用を推進する。また、業務を精選することで組織的で機動的な学校管理体制を図る。	①学習の UD 化の実現状況及び生徒の満足度が上昇したか。キャリア支援センター及びリソースルームにおける生徒相談の件数が適切であったか。 ②綾瀬市防災担当者との打ち合わせを実施できたか。予算を含めた次年度計画を立て、簡易な整備は実施できたか。 ③教職員が生徒と向き合う時間を確保しつつ、時間外勤務の時間が減少したか。					